

科目名	中小企業論特講	担当者	コバヤシ 小林 セイジ 世治	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	<p>日本の企業の多くは中小企業である。それぞれが属する地域と産業において、「異質多元」と呼ばれる多様な存在形態をもち、個性的な役割を果たしている。しかし、大企業と比較して量的規模だけではなく質的な差異・格差をもち、それらと対等ならざる関係を強いられている。さらに、「グローバル化」などさまざまな経済環境の激変にさらされ、個々の経営努力のみでは容易に解決のつかない課題を抱えている。こうした日本の中小企業の現状を、自ら調査・分析し政策立案できる力を修得するのが目的である。</p> <p>【ループリック】 A1:2, A2:1, A3:3, A4:2, A5:1, A6:2, A7:1, A8:2</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 中小企業にかんする一般知識を得ると同時に、その「問題性」と「発展性」の両面をバランスよく分析し、自らの職場体験などをもとに具体的な政策提言ができる。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】 テキストの内容を理解するだけでなく、自らネット検索などによって資料のアップデートを行い、「問題」の発展あるいは解消を確認する。また関連資料・著作も参照して、分析・評価の相対化を行い「自ら」の位置、したがって政策的立場を明確にする。最後に、政策の実現性に関して、様々な側面から自己検証することができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 テキストの全体を一通り読む(約1ヶ月)必要がある。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 参考資料の多くは該当する Web サイトから閲覧できます。そのためネット検索に習熟することは、一種のアクティブラーニングとなるでしょう。講義担当者の中小企業観なり中小企業政策に対する考え方については、過去2回行った講演・授業のビデオ(本HPよりネット配信)をご覧ください。</p> <p>【学修方略 (LS)】 「レポート作成」が中心です。レポートの課題に沿って、まずテキストを「読み込む」作業が必要です(自習10時間)。とくに関係する要素それぞれが位置づけられた文脈を確認し、相互の関係に留意します。異なる立場からの分析・評価がありうるので、できるだけ関連文献を参照します(自主研究10時間)。自らの立場と結論がどこまで明瞭にできるか、その根拠がどこまで説明力があるか反省しながら(自己ディベート10時間)、わかりやすい文章でレポートにまとめます(15時間;1本当たり計45時間)。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)の草稿は8月末をめどに提出する。「草稿」以前の段階でも、必ず1回はメール等で相談されたい。いずれの課題も9月中旬までに最終稿を提出すること。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)の草稿は12月中旬をめどに提出する。「草稿」以前の段階でも、必ず1回はメール等で相談されたい。いずれの課題も2020年1月課題提出締切日までに最終稿を提出すること。</p>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	内容 60% 提出 20%	課題に沿った論理構成で、十分に教材を読み込んでいるか 参考文献、先行研究などの検索・検討がなされているか 脚注などレポートの必要情報が正確に盛られているか 今回解明できず残された「問題」が何か、認識しているか 期限を遵守し、最終稿まで十分推敲したか、を問います
	観察記録	20%	最終稿までの相談状況から判断します
履修者への要望	<p>教材それ自体をしっかり読んで、疑問点などをメモしてください。レポートの作成はその次です。ネット検索は適切に行えば「力」になりますが、安易なコピペをすると自分の頭で考えることができなくなります。何がわかって何がわからないのか、自らはっきり区別できるようになるのが到達点です。全てがいつべんにわかった、ということは絶対ありません。何度でも読み直し考え直し、最後に、本当に「わかった」という感動を味わってください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 植田浩史・桑原武志・本多哲夫・義永忠一・関智宏・田中幹大・林幸治 教材名： 『中小企業・ベンチャー企業論—グローバルと地域のはざまで[新版]』 （有斐閣，2014年）ISBN:978-4-641-16431-4 2,400円+税
	既存の中小企業だけでなく起業・ベンチャー（第IV部）にも目配りした，バランスの良い入門テキスト。『中小企業白書』をはじめ参考資料が充実し，そうした資料分析にも触れることができる。レポート課題を行うためのモデルともなる。
参考図書	中小企業庁『中小企業白書 2019年版』（ホームページからダウンロード可能）
履修上のポイント	絶えず大企業と対比し，経営学での「一般的」指針との落差を意識して，中小企業の実態を把握するよう努める。そうした「問題性」とともに，「発展性」や可能性にも思いをめぐらそう。
レポート課題 1	中小企業の経営上の「問題点」を整理しなさい。 留意点： 大企業と比べた格差の原因や，大企業との関係（有無と内容）と関連付ける
レポート課題 2	中小企業の現状と課題について「参考図書」から探り，どのような政策的配慮が必要か述べなさい。 留意点： 教材で示された中小企業の一般的特徴と，どこがどう違うか確認すること

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 黒瀬直宏・上原聡 編著 教材名： 『中小企業が市場社会を変える～中小企業研究の社会論的転換～』 （同友館，2014年）ISBN:978-4-496-05046-6 2,400円+税
	5つのトピックを取り上げ，中小企業の社会的役割を広く「社会経済」の枠組みで示す，試論集。中小企業が，市場をベースとし高度に発達した資本主義のもと，多くが採算に合わないものとして，その「不合理性」が強調される。しかし逆に現在の経済システムじたいに問題はないのだろうか？
参考図書	松永桂子著『ローカル志向の時代』 （光文社新書 788，2015年）ISBN:978-4-334-03891-5 740円+税
履修上のポイント	中小企業政策の変遷は基本教材1や「参考図書」をみてほしいが，中小企業とくに小規模企業が本来果たすべき役割は，狭い意味での「市場」なり営利事業の範囲で考えてはいけない。人々の「働き」や企業活動とはそもそも何であったか反省し，政策的視座を再構築しよう。
レポート課題 1	第1章あるいは第2章を要約し，これからの研究課題——貴方自身にとってあるいは一般的に——を考えてみよう。 留意点： 中小企業論の理論的な奥深さを感じ取ってほしい。
レポート課題 2	第3章～第5章のうち1つを取り上げ，これからの政策課題を考えてみよう。 留意点： 政策主体は，政府（国や自治体）だけに限らない。こうした主体形成も重要な課題。